

1 単元名 評論家になって、作品を交流しよう
『鳥獣戯画』を読む

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「評論家になって作品を交流する」ことを設定した。この活動によって、筆者のものの見方や表現の仕方に焦点化した読み方ができ、自分ならばどう読むかをまとめることができる。本教材は、筆者が何を事例として取り上げ、どこに目を着けて、どのように評価しているかが分かりやすい文章である。したがって、(C 読むことウ)「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること」を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

3 単元について

(1) 児童観

(男子*人 女子*人 計 *人)

調査内容	正答	誤答
1 新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える。	*人	*人
2 見出しの表現の工夫についての説明を選択する。	*人	*人
3 目的や意図に応じ、内容を整理しながら記事を書く。	*人	*人
4 文章と図を関連付けて、自分の考えを書く。	*人	*人

上記はH27全国学力・学習状況調査の結果である。本学級の児童は表現の工夫を捉えたり、説明をすることに課題がある。また、書かれている文章の内容を整理して書いたり、文章と図を関連付けて自分の考えを書くことにも課題がある。自分の考えを文章にまとめることに苦手意識を感じている児童も多い。その理由として、まとめる時にどのような言葉を使ったらいいかわからないというものが多い。

また、言葉の理解度調査を行ったところ、本教材に出てくる「抑揚」や「濃淡」、「気品」「原理」などの言葉はほとんどの児童がその意味を答えることができなかった。語彙力が乏しい傾向にあることも本学級の実態である。

(2) 教材観

本教材は、学習指導要領国語科第5学年及び第6学年の目標C読むこと(3)「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」及び、内容(1)ウ「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること」オ「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」を踏まえて設定されたものである。

教材文『鳥獣戯画』を読むは、アニメーション映画のプロの見方とともに、アニメーションのルーツともいえる「鳥獣戯画」などの絵巻物が伝統文化として深く息づいてきたものであることを知り、日本の伝統文化の深さにもふれることのできる説明的文章である。そして、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと、友達との交流を通じ自分の考えを広げたり深めたりすることができる教材である。

(3) 指導観

本教材では、「筆者のものの見方を捉え、自分の考えをまとめる」ことをねらいとしている。そのためには、まず、筆者のものの見方を正しく捉えることが必要になる。そこで、筆者が絵や絵巻物の「何を」「どのように感じ(評価し)」、それを「どのような言葉で表現しているか」を絵と文章を照らし合わせながら丁寧に読み取ることが大切である。また、筆者が自分のものの見方を読者に納得してもらおうための文章のしかけ(表現や構成の工夫)を捉え、読者としてそのようなしかけを評価するという読み方も、今後求められる読みの力として大切であると考え。

以上の内容を達成するために、第1次では、絵を「読む」とはどのようなことか、という発問を児童達に投げかけ、本単元では絵を「読む」ということはすなわち、描き手の意図を想像しながらその絵を評価していくことであることを考えさせる。そして、自分が評論家になって作品を評価していくという言語活動を行っていく学習計画を立てる。第2次では『鳥獣戯画』を読むを、絵と文章を照らし合わせて読んだり、筆者の表現や構成の工夫を押さえてワークシートに整理したりしていくことで、評論することへの準備を行っていく。そして第3次では、作品を評価する解説文を書く。そして、それらを読み合い、話し合ったりすることで筆者のものの見方を捉え、友達との意見交流を行いながら自分の考えをまとめていくことができると考える。

4 単元の目標

- 絵巻物に対する筆者の見解に興味をもち、進んで文章を読んだり、解説文にまとめたりしようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- 筆者がどのようなことを根拠として考えを述べているのかを捉えることができる。(読むこと)
- 筆者の意図と表現の工夫との関連について考えながら読むことができる。(読むこと)
- 文末表現や助詞の使い方など、語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解することができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 絵巻物に対する筆者の見解に興味をもち、進んで文章を読もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者がどのようなことを根拠として考えを述べているのかを捉えている。 筆者の意図と表現の工夫との関連について考えながら読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文末表現や助詞の使い方など、語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解している。

6 単元の指導計画（10時間扱い）

次	時	主な学習内容	主な評価（方法、観点）
1	1	動きのある絵に関心をもち、絵を「読む」ことはどういうことか考える。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の感じ方と筆者の見方や感じ方を比べながら読み、感想を述べている。（観察、国語への関心・意欲・態度）
	2	『鳥獣戯画』を読むを読んで、学習したことを生かし、「評論家になって作品を紹介しよう」という学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを表現するために必要な学習を理解して、学習計画を立てようとしている。（観察、国語への関心・意欲・態度）
2	1	<ul style="list-style-type: none"> 絵と文章を照らし合わせながら、筆者の見方を捉え、自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者が、絵のどの部分を取り上げ、何に着目し、絵や絵巻物をどう評価しているかについて、絵と文章を対照させながら読み取っている。（ワークシート、読む能力） 読み取った筆者の評価や表現の仕方に対し、自分の考えをまとめている。（ワークシート、読む能力）
	2		<ul style="list-style-type: none"> 表現や構成の工夫について、その効果をまとめている。（ワークシート、読む能力） 文末表現や助詞の使い方などを意識して読んでいる。（観察、言語についての知識・理解・技能）
3	3	筆者が自分の見方を読者に伝えるために、表現や構成で工夫していることを見付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 表現や構成の工夫について、その効果をまとめている。（ワークシート、読む能力） 文末表現や助詞の使い方などを意識して読んでいる。（観察、言語についての知識・理解・技能）
	4		
	1	解説文の構成シートを作成し、筆者の書き方の工夫を基に、解説文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の文章に利用するために、筆者のものの見方や文章の書き方を利用して解説の文章に表し、自分の考えを明確にしながら読んでいる。（ワークシート、読む能力）
	2	友達が書いた解説文の着眼点、評価の言葉、表現の工夫を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 友達が書いた解説文の着眼点、評価の言葉、表現の工夫に着目しながら読んでいる。（ワークシート・読む能力）
	3	自分が書いた解説文を基にした話し合い活動を通して、ものの見方や表現方法を広げる。（本時）	<ul style="list-style-type: none"> 解説文についての自分の考え方と友達の考え方を比べて、ものの見方や表現方法を広げている。（ワークシート・話し合いの様子、読む能力）
	4	「鳥獣戯画」が「国宝」であり「人類の宝」である理由について考える。	<ul style="list-style-type: none"> 「鳥獣戯画」が「国宝」であり、「人類の宝」であることについて自分の考えをまとめている。（発言、読む能力）

7 本時の学習

(1) 目標

○ 解説文についての自分の考え方と友達の考え方を比べて、ものの見方や表現方法を広げることができる。

(2) 準備・資料

解説文, ワークシート, グループ用ワークシート

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">よりよい解説文をつくって交流し、ものの見方や表現方法を広げよう。</div></p> <p>(1) 解説文に線を引いたところを確認する。 (2) グループで話し合う。 (3) 別のグループと交流する。 (4) ものの見方、表現方法について個人で考える。 (5) 振り返りをする。</p> <p>2 線を引いたところに着目しながら解説文を読む。 <パーソナルワーク> 「着眼点」に青線 「評価の言葉」に赤線 「表現の工夫」に黒線</p> <p>3 グループで、話し合う。 <グループワーク> 話し合いの観点 (1) 作品のどこに着目したか。「着眼点」 (2) どんな評価をしたか。「評価の言葉」 (3) 書き出し、問いかけ、体言止め等、文章の書き方に目を向ける。「表現の工夫」</p> <p>4 別のグループと交流しそれぞれの絵の見方、表現方法を知る。 <クラスワーク> (1) 各グループを半分に分ける。 (2) 各グループの半数が残って説明をし、もう半数は他のグループに説明を聞きに行く。 (3) グループ毎に話を聞いてきた内容について確認する。</p> <p>5 ものの見方、表現方法について個人で考える。<パーソナルワーク> ・グループワークから ・クラスワークから</p> <p>6 振り返りをする。 ・今日の学習がどんなことに生かせるか。 ・これからの学習に役立てたいことは何か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の大きなめあてと本時の目標を確認し、目的意識をもって学習に取り組めるようにする。 ・自分でまとめた解説文を読んだ後、それを基にグループやクラスで考えを広げるといふ学習の流れを押さえる。 ・学習形態が個人、グループ、一斉という流れになることを確認する。 ・解説文を読む際、何に着目したのか（着眼点）、どんな評価をしたのか（評価の言葉）、どんな表現方法を工夫したのかの三点にしばらく、グループでの話し合いの見通しを立てさせる。 ・批判をすることはいけない、できるだけ多くのアイデアを出す、意見を改良したり組み合わせたりするなどのルールを確認することで多様な考え方を認める雰囲気を作る。 ・各自でまとめた解説文を基に、「着眼点」「評価の言葉」を見付け出し、ものの見方の違いを確認する。 ・よりよい解説文を作成するために、グループの中でベースとなる解説文を一つ選ぶよう指示する。 ・解説文をまとめていく際に、表現の工夫にも着目しながらまとめられるよう助言する。 ・グループで一つの解説文が完成したら、それにふさわしい題名をつけ、他のグループの興味を引けるよう助言する。 ・別のグループと交流することで、考えが広がるようにすることを伝える。 ・説明をする児童は、グループで作成したワークシートを基に話し合った内容を説明した後、作品を読み紹介する。また、その際、なぜその表現方法を選んだのか等、根拠を説明できるようにする。 ・説明を聞く児童は、自分たちのグループとの共通点、相違点に気を付けて聞けるようにする。 ・説明を聞いた児童は、自分のグループに戻り、聞いてきた内容を伝える。その際、自分の考えや感想も述べるよう助言する。 ・グループやクラスで話し合ったことから、ものの見方や表現方法について広がったことを個人でまとめるよう指示する。 ◎ 解説文についての自分の考え方と友達の考え方を比べて、ものの見方や表現方法を広げている。 （ワークシート・話し合いの様子） ・振り返りを文章にまとめることで、本時で学んだことをこれからどのように生かしていきたいかということ等を考えさせたい。